

博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

機 関 名	東京工業大学	整理番号	B02
プログラム名称	環境エネルギー協創教育院		
プログラム責任者	岸本 喜久雄	プログラムコーディネーター	波多野 睦子

博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

[総括評価]

計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。

[コメント]

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、学長の強いリーダーシップの下、①異分野協創教育、②産官学協創教育、③国際連携協創教育の3つのプログラムを軸に、特に、①異分野協創教育に対しては計画を超えた取組であり、広範かつ一貫した教育・研究体系を築くことに成功した点は評価できる。特に、研究室ローテーション等が有効に機能する一方、官界・産業界からの講師の招聘により、政策、経営に関する講義も強化され、広い視野を持ったリーダーの育成に成功した。加えて、国際フォーラムへの参加やインターンシップ制度・海外メンター制度を通してグローバルリーダーを育てるシステムを構築した点も高く評価できる。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、俯瞰力や独創力を向上させる教育上の工夫を随所に行い、産業界もリーダーとしての俯瞰力やその活用力の成長を認めるまでとなった。こうして、修了者の66%（29名中19名）が企業に就職する実績をあげた点は評価できる。特に、環境エネルギー分野の幅広い専門力の習得・強化を促すだけでなく、実践的な課題解決力を強化するプログラム（例えば自主設定論文）等がキャリアパスの構築に有効に機能した点も当初の計画以上の成果であり、評価できる。インターンシップ制度や国際フォーラムの参加等によって構築された幅広い人的ネットワークが、国際的なネットワークへと発展することが期待される。

事業の定着・発展については、プログラム採択当初は23専攻の参加だったものが25専攻にまで拡大・発展し、さらに、平成28年度の教育改革によって教育組織が発展的に再編され、極めて充実したプログラムとなった点は評価できる。支援期間終了後は、新設される「リーダーシップ教育院」が博士リーダーシップ教育を引き継ぎ、研究組織については、「科学技術創成研究院」が平成28年4月に新たに設置されるなど、事業の着実な定着・発展が期待される。経済的支援については、産業界との包括契約や寄附講座の設置等の支援、加えて大学独自の奨学金制度の創設等の検討が進められている点も含め、当初の計画以上の成果となったことは評価できる。